

2025 年 6 月 20 日

各 位

株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ

サバ完全養殖実用化研究（『さばイバル・プロジェクト』）への支援について

ほくほくフィナンシャルグループのほくほくキャピタル株式会社（代表取締役社長 山口 新太郎）は、福井県立大学のサバ完全養殖実用化研究（通称『さばイバル・プロジェクト』※1）に、「事業化推進機関」として支援を行ってまいりました。

この度、同研究が科学技術振興機構（JST）・大学発新産業創出基金事業・スタートアップ・エコシステム共創プログラムの「令和7年度 TeSH GAP ファンドプログラム※2 ステップ2」に採択され、今後2ヶ年に及ぶ研究支援（2か年で60百万円、ただし1年毎の審査が前提）を受けることとなりました。

今、日本のサバは、前年比6割減もの漁獲規制がかかるほど減少し、「小浜よっぱらいサバ」をはじめとする各地の養殖サバも海水温上昇による大量死等で、存亡の危機に瀕しています。その危機を乗り越え日本のサバを復活させるべく、『さばイバル・プロジェクト』は、2024年に同基金のステップ1に採択され、支援を受けて、研究とスタートアップ事業計画に挑んでまいりました。その成果が認められ、この度、次のステップの支援、ステップ2に採択されました。

ほくほくキャピタルは、本プロジェクトの事業計画・資金調達計画の立案や販路開拓等の支援を行い、2027年に同研究を事業化（スタートアップ企業設立）し、「小浜よっぱらいサバ」をはじめ日本全国のサバ養殖を復活させ、新たな成長産業となることを支援してまいります。

**※1 サバ完全養殖実用化研究『さばイバル・プロジェクト』について**

サバは、近年天然種苗（漁獲した天然の稚魚）を大きく育てる形での養殖が始まり、各地にブランドが興り市場を広げていました。しかし、漁獲量低下による天然種苗不足と、海水の高温化による養殖場での大量死などにより、「小浜よっぱらいサバ」をはじめ養殖サバは壊滅の危機に瀕しています。

そこで、天然種苗に依存しない完全養殖、すなわち卵から孵化させた高温にも強い人工種苗による養殖の実用化を目指し、福井県の産学官からなり本学先端増養殖科学科の田原大輔教授が研究代表者として、『さばイバル・プロジェクト』が結成されました。

※2 スタートアップ・エコシステム共創プログラム GAP ファンドプログラムとは、

国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)のプログラムで、全国の大学等発スタートアップの創出に可能性のあるシーズを全国から引き出し、国際市場への展開を含め、大学等発スタートアップの創出に向けた取組について質・量ともに充実させ、大学等発スタートアップの継続的な創出を支える人材・知・資金が循環するエコシステムを形成する活動を支援する競争的研究資金プログラムです。

TeSH (Tech Startup HOKURIKU) とは、

上記 GAP ファンドプログラムの北陸地域の場合、北陸先端科学技術大学院大学と金沢大学を主幹機関とし、富山県、石川県、福井県の3県の13大学、3高専を共同機関とする北陸地域の大学・高専発のスタートアップ創出プラットフォームをいいます。

また、TeSH は、北陸発の上場企業や世界にはばたく新産業を育成することによって、地域の活性化を促し、新たな人材ニーズと設備投資につなげることで北陸地域の社会課題の解決に貢献していきます。

このGAP ファンドは、応用研究（用途仮説設計から概念実証フェーズ手前）を支援する「ステップ1」（1年間）と概念実証からスタートアップ組成までを支援する「ステップ2」（最大3年間）からなっています。

TeSH プログラム

<https://tech-startup-hokuriku.jp/program/index.html>

以上

＜本件に関するお問い合わせ先＞

北陸銀行法人ソリューション部 スタートアップ支援チーム
(連絡先：080-2968-1415)